

乙 貞

昭和57年11月30日発行

乙貞第8号

守山市立埋蔵文化財センター

守山市服部町/3/8番地

TEL 0775-85-4397

◎※◎ 春 季 特 別 展 予 告 案 内 ◎※◎

当センターも開設二周年を過ぎ各特別展には多数の入館者を迎え、好評の内に九回を数えました。来春の展示会では以下の通りの内容で開催します。

記

- | | |
|--------|--|
| 1 特別展示 | 守山の埋蔵名宝展 |
| 2 期 間 | 昭和58年3月19日～3月27日 |
| 3 講演会 | 第一回 3月21日 午後2時から
講師 丸山竜平氏 早大文化財保護課
演題 「野洲川の黎明を解く」
第二回 3月26日 午後2時から
講師 宇野茂樹氏 淑賀短大教授
演題 「守山の仏像彫刻」 |
| 4 映画会 | 第一回 3月20日 午前10時、午後2時
題名 「近江の文化財」
第二回 3月27日 午前10時、午後2時
題名 「守山秘話」 |

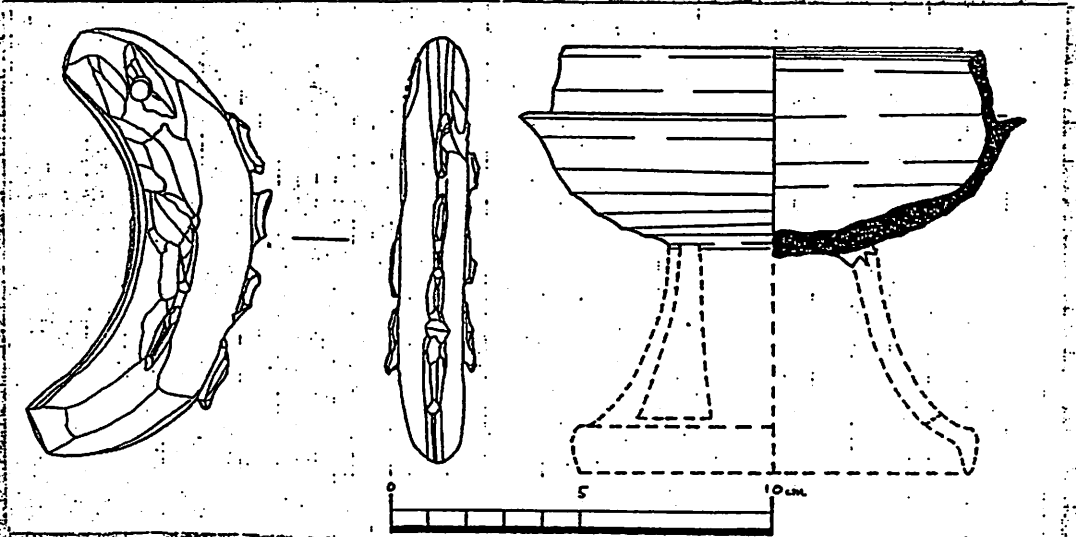
この展示会は市内で出土した埋蔵文化財多数の中で、全国的、また県内でも珍しく貴重な出土品を一堂に紹介するもので、子持句玉、銅印、琴、鋳型、人面墨書土器、鏡などを展示する計画です。

埋蔵文化財に秘められた原始、古代のロマンと息吹を感じるひとときを埋蔵文化財センターでお過ごし下さるよう御案内します。

是非お越し下さい！

※※※※※守山市でも子持句玉が!!※※※※※

今から20年程前に守山で子持句玉が出土していたことが最近明らかになりました。これは秋季特別展開催中に市内吉身町にお住いの川島 氏がセンターへ持ってきて下さったことからわかったことです。出土した場所は国鉄守山駅の東側、おそらく「つがやま荘」から東口団地にかけてのあたりだということで、元江州鍍瓦工場の近く、地下の鍍瓦用粘土を採っているときに土器と一緒にみつけたということです。子持句玉の大きさは、全長12cmほど、全幅3cmの大型で県内では最大のもので、うす緑色の滑石を加工して魚のような形に仕上げ、縁に多くの句玉を削りのこしています。子持の句玉は装身具というよりは、儀式に使う祭用品といわれ、古墳時代後期（今から約1500年程前）に当時の「吉身南むら」の長が使ったものと考えられ、貴重な資料です。

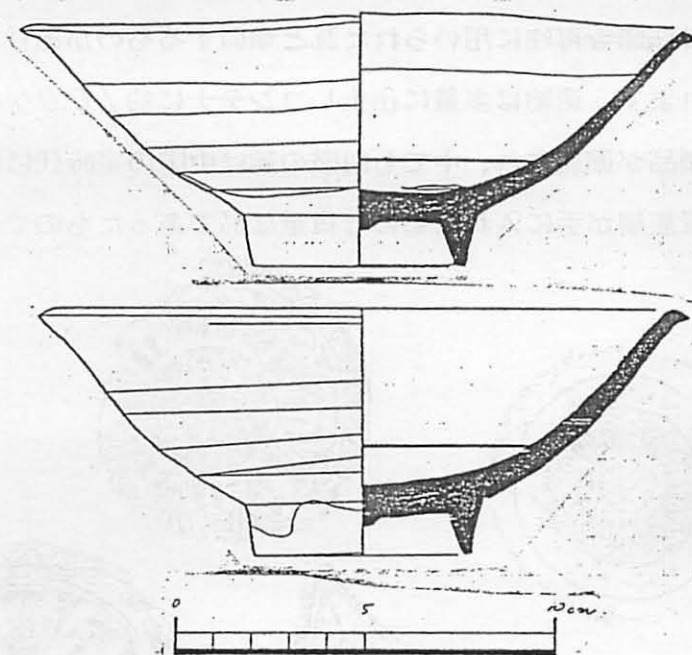


上は子持句玉と一緒に出土した土器です

XXXXXXXXX家型植輪や甲型植輪も発見XXXXXXXXX

これも珍しい発見です。市内浮気町と栗東町との境でみつかったもので、自転車道と水路改修の工事によって出土したものと考えられ、約100点の破片を整理したところ家型、甲型、円筒などの植輪が含まれていることがわかりま

した。近くの栗東町出庭には「かめ塚」古墳群があり、その中の現在は消滅した古墳の所在が確かめられたということが出来ます。同じ浮気町の吉身南遺跡からも一点だけですが植輪片があるので、現在の富士車両工場一帯には古墳が埋没しているものと考えられます。なお今回発見された植輪は五世紀のおわりごろから六世紀にかけての製品と思われます。今後この一帯の開発には充分注意をする必要があります。



上は益須寺遺跡出土の白磁碗です。

XXXXXXXXXXXX中洲小学校土器クラブの土器復元実習の紹介XXXXXXXXXXXX

市立中洲小学校に設けられているクラブ活動の中に土器クラブがあります。このクラブは土器の復元を通して古代の人々の生活を学ぶ目的でつくられたもので30数名の児童が毎週月曜日の午後埋蔵文化財センターで実習をしています。センターの復元と同じように接合から始めて、石こうで復元をしていて夏休み前からはじめて最近ようやく仕上げの段階になりました。

大昔の人々が作って使った土器に触れて児童の頭脳に何が残るか、センターでは後継者づくりというより、将来の中洲の文化を楽しみにしています。

あすの文化を担う子どもの一面です。

